

—— 読者アンケート結果より 「何が難しい？」各教科での言語活動

小誌が行った読者アンケートからは、多くの学校が、国語以外の教科や教科外で、言語活動の充実を図っていることがうかがえる。しかし、言語活動の目的が不明なまま実践されているのが現状のようだ。

課題

指導の現状

言語活動の意義が浸透しきれていないようだ

教師個々のイメージがバラバラのまま、言語活動に取り組んでいる

言語活動で何の力を付けるのか、校内で共有できていない

言語活動をしても、力が付いたかどうかの評価があいまいなまま進んでいる

背景にある課題

言語活動はされているが、「何のために」が抜けてしまっている

- 言語活動でどんな力を付けさせたいか、という目的が明確になっていない
- 言語活動の背景にある理論に目を向けないまま、具体的な方法を求めてしまっている

何のため？ 各教科での言語活動

解決のヒント

理論編

言語活動の目的は 思考力、判断力、表現力等の育成

文教大 鳴島 甫 教授 ● 越谷市教育委員会 小林俊夫 主査

P.6

- 言語活動により、意見を交わしながら、自分で考えを深められる子どもが育つ
- 言語活動には、思考力、判断力、表現力等を育てる具体的な要素が必要

実践編

子どもが考えを深める力を付けるために 言語活動に取り組む

埼玉県越谷市立 ^{がもう} 蒲生小学校

P.10

- 各教科・領域での言語活動を明確化。各学年の年間指導計画に加筆
- 力を育むための手立てを充実。考え方、話し方を示したり、表現力や語彙力を高めるための「ことのはノート」を運用したりする

秋田県横手市立 十文字第一小学校

P.15

- 育成すべき力を、「各教科等で育てたい国語力」として明確化
- 「国語力」を育む手段として、各教科の言語活動を併せて一覧に
- 全教科に応用できる考え方などのコツなどを、「学びの技」として活用

香川県綾川町立 ^{たきのみや} 滝宮小学校

P.20

- 子ども同士の「交流」活動を重視
- 「交流」が活発化するよう、グループ活動、ペア活動を取り入れる
- 話し合いの方法を示す「話し合い方シート」を活用